

現状・課題

- 県内の酪農及び肉用牛の飼養頭数は全国トップクラスの畜産主産県であるが、大勢を占める零細農家が生産基盤を支えている状況。
- 労働負担の軽減、飼料生産コストの削減を図るため、コントラクター等の外部支援組織の作業受託を推進。
- 高齢化等により農家戸数が減少する中、外部支援組織の一層の機能強化を図り、担い手の規模拡大・生産性向上を下支えすることが必要。

目指す姿

コントラクター等の受託機能を強化し、畜産経営の収益性向上を実現

コントラクター等組織間のネットワーク化を図り、粗飼料需給のマッチング、利用拡大を後押し

取組内容 (実証支援事業の活用 補助額：203万円)

1 コントラクター等の機能強化

(1) 牧草ダイレクトカット収穫

・コントラクター等の受託作業の拡大が可能となる牧草ダイレクトカット収穫技術(刈取り後の予乾工程を省略化したサイレージ調製技術)の飼料品質及び作業性等を検証。



〔牧草ダイレクトカット(先進地調査)〕(実証により調製したサイレージ)

(2) ICTを活用した圃場管理システム

・コントラクター等の受託作業の効率化を図るため、ICTを活用した圃場管理システムの導入効果等を検証。



2 コントラクター等組織間の連携強化

(1) 研修会の開催、会報の発行

・コントラクター等向け情報(実証成果等)の共有

期待される効果 (計画ベース)

【受託面積の増加】

- ・牧草
H26: 1,557ha → H31: 1,700ha
- ・飼料用トウモロコシ
H26: 865ha → H31: 1,000ha

【畜産農家の生産性向上】

畜産農家は、コントラクター等への作業委託により、飼養管理に集中し、生産性を向上(乳量、子牛生産)

今後の展望

・コントラクター等組織の更なる高度化に向けた新たな取組の実証(H29:粗飼料の広域流通等)

・実証成果等を踏まえ、地域へ技術普及、生産性向上に向けた計画・目標の策定